

群 教 七	G10 - 01
	令3.278集
	道徳

# 自己を見つめ、生き方についての 考えを深められる生徒の育成

—道徳科の授業におけるICTの活用を通して—

特別研修員 星野 純一

## I 研究テーマ設定の理由

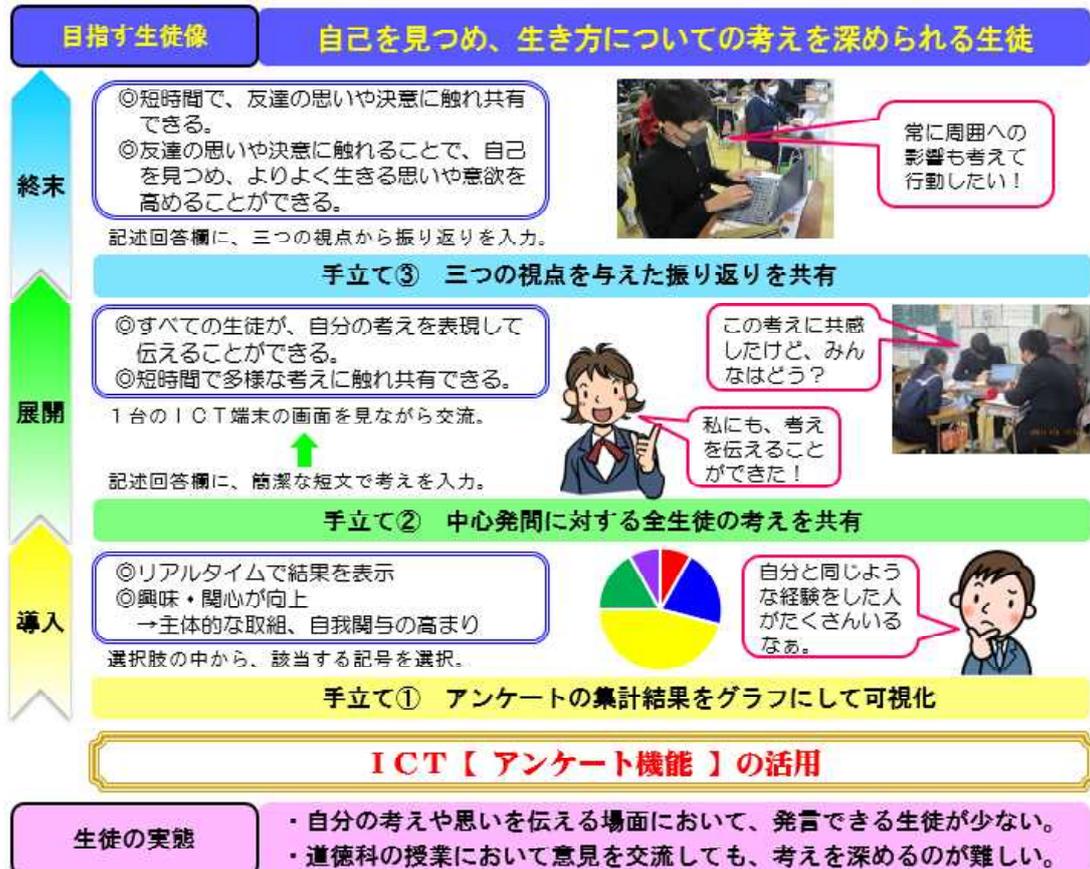
学習指導要領の全面改訂により、道徳は教科化された。人格の完成及び国民の育成の基盤となるものが道徳性であり、その道徳性を育てることが学校教育における道徳教育の使命である。「豊かな心」だけではなく「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、「生きる力」を育むために極めて重要なものである。生徒が常に自己を見つめながら、他者とともに多様な視点から話し合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていく「考え、議論する道徳」の授業を実践していくことが大切である。

研究協力校（以下、協力校）の第3学年の生徒は、真面目であり、与えられた仕事はきちんとできる。しかし、自分から考えや思いを素直に伝える場面があまり見られず、道徳科の授業においては、一般的な考えに留まり、友達との意見交流を通して自分の考えを深めるのが難しいという実態もある。

そこで、GIGAスクール構想による ICT端末が整備されたこともあり、アンケート機能を活用しアンケートの集計結果をグラフにして可視化し興味・関心を高めたり、全生徒の考えを共有し多面的・多角的な見方や考え方に気付かせたりすることを通して、自分の問題として捉え、自己を見つめ、生き方についての考えを深めさせることができると考え、本テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

真面目だが、自分の考えや思いを伝える場面で素直に発言できる生徒が少ない、道徳科の授業で意見を交流しても考えを深めるのが難しいという協力校の生徒の実態を踏まえ、研究テーマ「自己を見つめ、生き方についての考えを深められる生徒の育成」に迫るため、以下の手立てを考えた。

### 手立て ICTのアンケート機能の活用

- ①導入の場面において、アンケートの集計結果をグラフにして可視化する。
- ②展開の場面において、中心発問に対する考えを簡潔な短文で入力させ全体で共有する。
- ③終末の場面において、三つの視点を与えて振り返りを入力させ共有する。

#### 手立て①について

導入の場面において、本時で扱う道徳的価値に関わるアンケートを実施する。回答は、選択肢から選び、ICT端末でクリックし送信する。瞬時に結果が円グラフとなり、画面に映し出される。結果が一目で分かり、全体の傾向をつかむことが容易にできる。また、自分と同じ考えをもっていたり、同様な経験があったりすることなどが分かるとともに、興味・関心が高まり、自分の問題として捉えやすくなる。

#### 手立て②について

展開の場面において、中心発問に対する考えをICT端末に入力して送信する。送信した順に考えが羅列表示される。その後、4人の班で1台のICT端末の画面を見て、多い考えや気になる考えについて交流させる。ICT端末に考えを入力させることにより、発言することが苦手な生徒にも自分の考えを表現し伝える機会を与えることができる。簡潔な短文で記述するよう指示することで、入力する時間が短縮でき、交流の時間が確保できる。多様な考えを、短時間で共有することもできる。

#### 手立て③について

終末の場面において、三つの視点「今までの自分、学んだこと・気付いたこと、今後に向けての思いや願い及び決意」を与え、ICT端末に振り返りを入力し送信する。視点を与えることで、思考の変容が分かる。また、短時間で考えが共有でき、友達の思いや決意に触れることで実践意欲や態度が向上し、自己を見つめたり考えを深めたりすることにつながる。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 導入の場面では、生徒がアンケートの集計結果に興味・関心をもち、大型モニターや画面を注視する姿が見られた。意欲の向上にもつながり、自分の問題として捉えるのに有効であった。補助発問をする際にも再提示したことで、問題意識をもち自分のこととして考えることができた。
- 発言を苦手とする生徒も、自分の考えを表現し伝えることができた。
- 展開の場面では、中心発問に対する考えをできる限り簡潔な短文で示すよう指示をしたので、入力する時間を短縮でき、交流する時間を確保できた。短い時間の中で多様な考えがあることに気づき、自分の考えを比べながら意見を交流させることで考えが深まった。
- 終末の場面では、振り返りに込められた友達の思いや決意に短時間で触れることができ、実践意欲が向上し、自己を見つめたり考えを深めたりすることにつながった。

### 2 課題

- 「中心発問に対する考えをもつ」と「本時を振り返る」場面でアンケート機能を活用して記述回答させたが、「学習のめあてについてもう一度考える」場面での活用も考えられる。どの場面でどのように活用するのがより有効なのか、検討していく必要がある。
- 交流や振り返りの時間を、十分に確保する必要がある。入力時間を短縮することが、ICTの有効活用につながると考える。

## 実践例

- 1 主題名 誠実な心と責任ある態度 内容項目 A-(1) 自主、自律、自由と責任  
教材名 「思い出のオムライス」(出典:「明日への扉3」学研)

### 2 本主題について

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目 A-(1) 自主、自律、自由と責任「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」に関わるものである。自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本である。そのためには、自らの規範意識を高め自らを律することができるようになることが大切である。指導に当たっては、小学校における指導内容を更に発展させ、より高次の自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。悪を悪としてはっきり捉え、それを毅然として退け、善を行おうとする良心の大切さに気付くようにしなければならない。また、善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付き、自分の行為の動機の純粹さに留まることなく、その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。誠実な心と責任ある態度について考えることで、自らを律し自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、人間としての誇りをもった、責任ある行動がとれるようにさせたい。

#### (2) 生徒の実態について

協力校の第3学年は、真面目であり、与えられた仕事はきちんとできる集団である。ほとんどの生徒はやるべきことを考えることができ、係や委員会など決められた活動には責任をもって取り組める。その反面、自分から言動に表すことが苦手で、全体としては消極的である。また、自分自身の行為がどのような結果をもたらすのかということを深く考えられず、うそをついたりごまかしたりするなど、自分本位な言動をとる生徒が見られることもある。そこで、誠実な心と責任ある態度について考えさせることを通して、自分の行為の及ぼす結果について深く考え、自らの規範意識を高め、自らを厳しく律していけるようにしたいと願い、本主題を設定した。

#### (3) 教材について

本教材は、うそをつくことの意味について考えさせられた幼少期の体験を振り返る「私」の思いを通して、ねらいに迫るものである。小学3年生だった「私」は、熱を出して学校を休み、母親にオムライスの出前を取ってもらった。その味が忘れられず、母親に熱があるとうそをついて4日目も休んで昼食にオムライスを取ってもらい、母に厳しく叱られる。自分のためだけにうそをついた「私」の気持ち、それに対する母の思い、うそを見破った母がどうしてあれほど怒ったかを考えることを通して、誠実に行動することにより人間としての誇りをもつ良心的な生き方について考えることができる教材である。自分の利益のために不誠実な行為をすることが信頼を裏切り自分の評価を落とすことを理解させるとともに、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚させたい。人間としての誇りを持ち、責任ある行動がとれるようになることが大切であることを理解させ、他者との話し合い等を通して誠実に行動していこうとする実践意欲や態度を育ませたい。

### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、ICTのアンケート機能を活用し、問題意識をもたせ、多様な考えに触れさせる手立てを、以下の三つの場面で具体化した。

#### ①導入の場面において、アンケートの集計結果をグラフにして可視化する。

道徳的な課題を自分自身の問題として考えさせるために、導入の場面において、ICTのアンケート機能を活用して、集計結果をグラフ化するなどして可視化し、興味・関心を高める。

#### ②展開の場面において、中心発問に対する考えを簡潔な短文で入力させ全体で共有する。

生き方についての考えを深めさせるために、交流する場面において、ICTのアンケート機能を活用して、多様な考えに触れさせ、考えを交流する場を設定する。

③終末の場面において、三つの視点を与えて振り返りを入力させ全体で共有する。

今後に向けよりよい自己の考えや生き方への思いや願いを深めさせるために、振り返りの場面において、ICTのアンケート機能を活用して、様々な思いや願い、決意に触れさせる。

#### 4 授業の実際

##### 【導入の場面】

「導入」では、「今までの生活の中で、うそをついたりごまかしたりして後悔したという経験があるか。それはいつ頃か」というアンケートを実施し、本時で扱う道徳的価値への方向付けを行った。

**手立て ①導入の場面において、アンケートの集計結果をグラフにして可視化する。**

アンケートの答えは、次の五つの選択肢から選ぶようにした。

ア ある（小学校入学前） イ ある（小学校1～3学年） ウ ある（小学校4～6学年）  
エ ある（中学校入学後） オ ない

選択肢を与えたことで、生徒は短時間で答えることができた。また、集計結果を示すグラフは、生徒の入力により瞬時に変化するので、どのような結果になるのか、大型モニターやICT端末の画面を注視する生徒の姿が見られた（図1）。ほとんどの生徒が、後悔した経験があるということが一目で共有できて、生徒の興味・関心を高めることができた。

アンケートの集計結果は、次のようであった。

ア 8.3%                      イ 20.8%                      ウ 45.9%  
エ 16.7%                      オ 8.3%

アンケートの集計結果を受け、うそや偽りがないという意味の言葉として「誠実」を紹介し、本時のめあて「誠実に行動するためには何が大切か考えよう」を設定した。

その後、登場人物を確認し、主人公である「私」の気持ちやそれに対する母の気持ち、母の言葉に着目して聞くように指示をして、CDによる範読を行った。

##### 【展開の場面】

「展開」では、まず、うそをついた時の「私」の気持ちについて質問した。“オムライスを食べるのが楽しみ”“ワクワク”“また食べられる（から嬉しい）”その反面で“ドキドキ”“不安”という意見が出された。「私」は自分のことだけを考えていたことも確認した。その後、娘に対する母の気持ちについて質問した。“怒り”“悲しみ”“ショック”という意見が出された。母は娘のことを優先していたことも確認した。続いて、母に叱られた直後の「私」は“家が貧乏なのが悪い”“怒る母が悪い”と思っていたことを確認した後、中心発問をした。

◎中心発問：「うそつきは神様が許しても母ちゃんは許さん」という言葉が「私」の頭の中をずっと支配し悪事を思いついてもブレーキをかけたのはなぜか」

**手立て ②展開の場面において、中心発問に対する考えを簡潔な短文で入力させ全体で共有する。**

入力させた後、3～4人の班を編制した。班に1台だけICT端末を用意させ、どのような考えが多いかを確認させた。次に、気になる考え（一番よい、おもしろい、よく分からない等）を1人の生徒が理由とともに示し、それについて周りの友達が思うことを伝え合う活動を行った（図2）。班での交流は以下のものであった。

A「自分が悪かったと分かったから」という内容が多いね。

私も“いけないことをしたと自覚したから”と考えた」

B「私も同様な考えだった」

C「母の言葉の意味を理解することができたから」という考えも多いね」

D「主人公の考えが変わったから」という考えがあるけど、私にはよく分からない。考えが変わったとは、どういうことだと思う？」

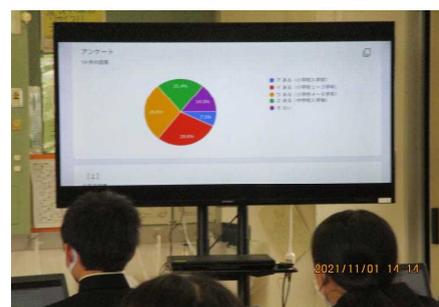


図1 アンケートの集計結果の可視化



図2 班での意見交流

B「自分を優先してうそをついたけど、母を悲しませた後悔に変わったということだと思う」

D「なるほど。自分だけの感情に流されず、相手のことや結果を考えることが大切だと分かった」

ICTのアンケート機能を活用したことで、短時間で考えを共有することができ、話合いの時間が確保できた。賛同する意見や違う視点からの意見等も出され、考えを深められた生徒もいた。

その後、補助発問として「人はなぜ、結果を考えずに行動してしまうことがあるのか」について考えさせた。導入で行ったアンケートの集計結果のグラフを再提示して、教科書から離れて自分自身の生活を振り返るよう指示した。“自分を優先するから”“思いつきで行動するから”“結果を考えないから”などの意見が出された。

続いて、改めてめあてについて考えさせた。生徒からは、“うそをつかないこと”“正しい判断をすること”“相手のことを考えること”“結果を考えてから行動すること”などの意見が出された。

### 【終末の場面】

「終末」では、座席を元に戻させて本時の振り返りを ICT端末に入力させた。

**手立て ③終末の場面において、三つの視点を与えて振り返りを入力させ全体で共有する。**

振り返りの視点として「今までの自分、学んだこと・気付いたこと、今後に向けての思いや願い及び決意」の三つを与えた。文章が長くなるため、入力する時間を確保する必要があるが、真剣に考え自分の思いや決意等を入力する姿が見られた(図3)。入力が終わった生徒には、友達の振り返りを読むように指示した。画面を見つめて、うなずいたり微笑んだりする生徒の姿も見られた。入力途中の生徒もいたが、時間に余裕がなかったため、数名の生徒に発表をさせた。翌日、全員の振り返りを羅列表示したプリントを生徒に配付した。当日の授業内では全員の振り返りを読む時間がとれなかったこともあり、プリントに目を通しながら感想等を述べる生徒の姿が多く見られた。



図3 振り返りを入力

## 5 考察

導入の場面で、アンケートの集計結果をグラフにして可視化したことにより、生徒の興味・関心を高めることができ、本時で扱う道徳的価値に関わる問題意識をもたせ自分の問題として捉えやすくするのに有効であった。また、交流や振り返りの場面で、ICT端末に自分の考えを入力させたことにより、発言することが苦手な生徒にも自分の考えを表現し伝える機会を与えることができた。さらに、ICT端末に入力させたことにより、全員の考えに触れることができ、短時間で考えを共有するのに有効であった。振り返りには“今までは、目の前のことしか考えられず後悔することが多かったけど、今回の授業を通して、後のことを考え行動し、自分のことだけではなく相手のことを考え行動していくことが大事だと分かった。今後は、先のことを考えて行動していきたい”“その場をどう切り抜けるか、どうしたら自分に利益があるかだけを考えないで、自分が相手にその行動をされたらどう感じるか、その行動をしたらどうなるのかなどもしっかり考えて行動しようと考えた”等の記述があった。

ICTのアンケート機能を活用し、道徳的価値を自分の問題として捉えさせ、全員に自分の考えを表現させ、様々な思いや願い・決意に触れさせたことにより、目指す生徒像「自己を見つめ、生き方についての考えを深められる生徒」に迫ることができたと考える。課題としては、①タイピングの技術に個人差があり、全体として入力する時間がかかってしまう ②考えを文章で入力した場合、全員の考えが羅列表示されるために、学級の生徒数が多い場合には見づらくなってしまふなどが挙げられる。

ICTには様々なソフトや機能があるので、目的やその後の活用の仕方などに応じてより有効なものを模索していく必要がある。

今回の実践においては、導入から振り返りまで一つのツールだけを活用しているため、入力した内容をシートにでき、自他の考えの変容が一目で分かる。他のアプリとの互換性もあるので、活用の幅の広がりも期待できると考える。ICTの活用は、生徒のたくましく生きる力を育む上でとても有効であるので、今後も積極的に活用していきたい。